佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 288 集

KAMIHIJIRIBATA

上聖端遺跡Ⅴ

長野県佐久市上聖端遺跡第 5 次発掘調査報告書

２０２２.３

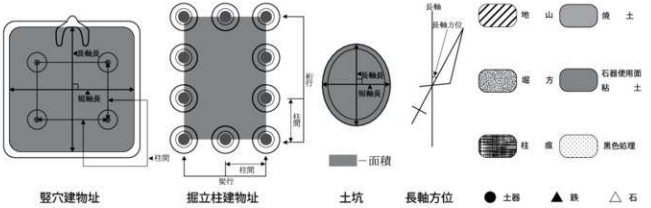
佐久市教育委員会

例　言

1　本書は長野県佐久市に所在する上聖端遺跡第５次発掘調査報告書である。
2　調査は株式会社カネトが行う配送センター建設に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
3　遺跡名及び所在地　　上聖端遺跡Ⅴ（ＮＮＫＶ）
　　佐久市長土呂字上聖端 157-1他
4　調査期間及び面積　　発掘調査：令和元年 11月 5日～ 11月 27日
　　整　　理：令和元年 11月 28日～令和４年３月 31日
　　調査面積：596.31㎡
5　本書に掲載した地図は佐久市役所発行の地形図（1：50,000）である。
6　遺構測量は TSを用い３次元データを取得した。取得したデータは株式会社 CUBICの「遺構君」により図化した。図面トレースは「遺構君」で行い、Adobe　Illustratorで調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し Adobe　Photoshopで補正等を行った。
　　編集は Adobe　InDesignで行った。
7　本書の作成・編集は小林が行った。
8　本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1　挿図の縮尺は遺構 1/80、遺物 1/4（鉄器・鉄製品は 1/2）を基本とするが、これ以外の物は図中に縮尺を記した。
2　海抜標高は、水糸標高をスケールに「標高」として記してある。また、土色の色調は 1999年版「新版標準土色帖」に基づいた。
3　遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
4　挿図中の網掛けは以下の表現である。



目　次

例言
凡例
目次

第Ⅰ章　調査の経緯 …… 1
第1節　経過と立地 …… 1
第2節　調査体制 …… 1
第3節　検出遺構・遺物の概要 …… 2
第Ⅱ章　遺構と遺物 …… 2
第1節　竪穴建物址 …… 2
第2節　掘立柱建物址 …… 13
第3節　土坑 …… 13
第4節　ピット …… 13
第Ⅲ章　まとめ …… 13
表 …… 13
図版 …… 19
抄録
奥付

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第1節　経過と立地

上聖端遺跡Ⅴは佐久市長土呂字上聖端地籍に所在する。遺跡は浅間山に源を発する濁川と蟹沢の浸食によって形成された「田切り」地形に挟まれた南北に延びる台地上中央付近に位置する。縄文時代から中世にかけての複合遺跡で、標高705～760mを測る。遺跡の周辺地域では、1993年3月の上信越自動車道佐久インターチェンジ開通前後から、道路建設・流通団地造成・店舗建設など開発が進み、発掘調査も数多く行われてきた。代表的な遺跡としては、今回の調査地域北東で、流通業務団地造成に伴う聖原遺跡の発掘調査が平成元年～平成7年にかけて実施され、古墳時代から平安時代を中心とした竪穴建物址が900軒以上調査された。上聖端遺跡でも過去4次に及ぶ調査が実施され、多くの遺構・遺物が検出されている。今回、遺跡内で株式会社カネトにより配送センター建設が計画されたことから、遺跡の保護を目的とし、状況を把握するための試掘調査を令和元年10月10日～16日に実施した。その結果、遺構が検出されたため、遺構の破壊が予測される掘削箇所等について記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。なお、掘削部分以外については埋土保存を行った。

第2節　調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	棚澤晴樹　吉岡道明（令和3年5月～）
事務局	社会教育部	部　長	青木　源　三浦一浩（令和2年度）　土屋　孝（令和3年度）
	文化振興課	課　長	東城　洋　平林照義（令和3年度）
		企画幹	吉田　晃　岡部政也（令和2年度）　谷津和彦（令和3年度）
	文化財調査係	係　長	山本秀典
		係	冨沢一明　上原　学　羽毛田卓也　小林眞寿　久保浩一郎
		調査担当者	小林眞寿
		調査員	甘利隆雄　岩松茂年　大矢志慕　小林喜久子　小林節子 小林敏雄　堺　益子　清水律子　副島充子　田中ひさ子

花岡美津子　細谷秀子　堀籠滋子　宮川真紀子　山口ひとみ
柳澤孝子　柳沢千賀子　山田叔正　油井満芳

第３節　検出遺構・遺物の概要

遺構　竪穴建物址 - ８棟　掘立柱建物址 - １棟　土坑 - １基　ピット - １０基
遺物　土師器　須恵器　石器・石製品　鉄器

第Ⅱ章　遺構と遺物

第１節　竪穴建物址

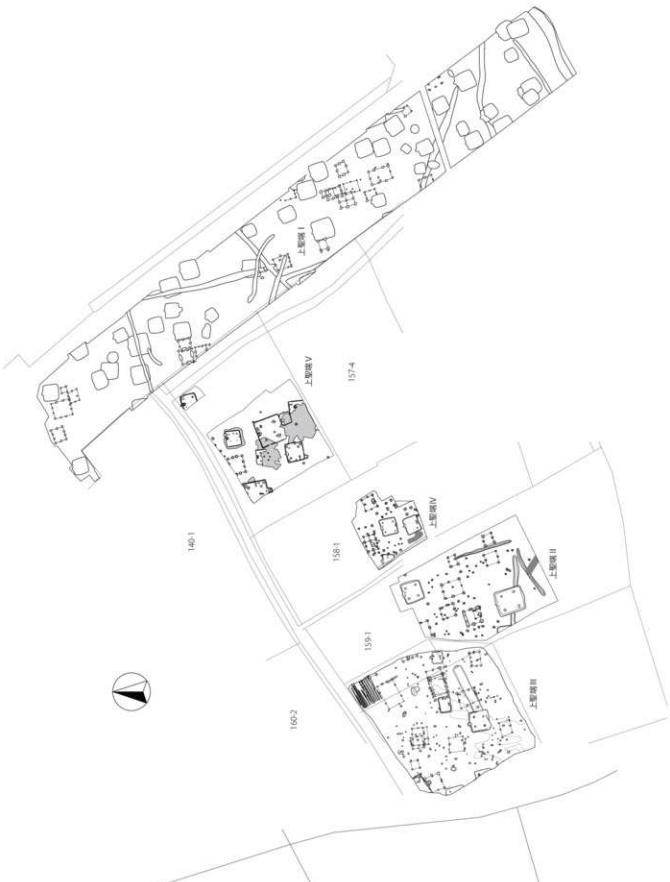
● H1号竪穴建物（第3図）

調査区北東端で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。検出範囲において他遺構との重複関係は有さない。N－15°－Wに長軸方位をとり、長軸長4.56ｍ、壁残高0.4ｍの規模である。床面上で検出された４基のピットのうち、P1～P3の3基は主柱穴でφ16㎝の柱痕が認められた。P4は貯蔵穴である。カマドは北壁の中央部分に所謂「地山削出」で両袖を造り、焚口を石で構築し、全体を

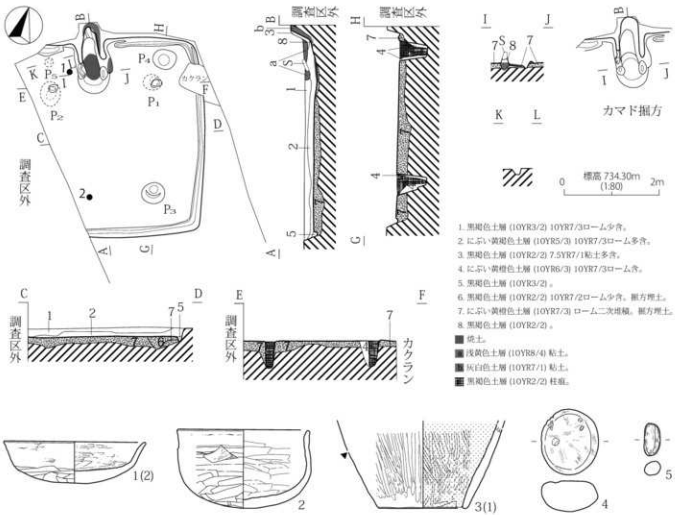
第１図　上聖端遺跡Ⅴの位置（1：50,000）

粘土で被覆して構築されていた。カマド部分を除く壁下には周溝が巡っている。

遺物は、土師器、石器・石製品が出土している。土師器には坏・鉢・甑の器種が認められる。坏1は須恵器坏蓋模倣の形態で、外面底部にヘラケズリが施される他はヘラミガキ調整が施される。鉢2は身の深い



第２図　上聖端遺跡次別調査位置



第３図　H1 号竪穴建物

丸底の底部から短い口縁部が立ち上がる形態で、内面ナデ、外面ヘラケズリ調整が施される。甑3は底部が全開する形態で、内外面にヘラミガキ調整が施され、内面には更に黒色処理が施されている。石器は磨石が、石製品は軽石製品が各１点出土している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は古墳時代後期６世紀代の実年代が想定される。

● H2号竪穴建物（第4・5図）

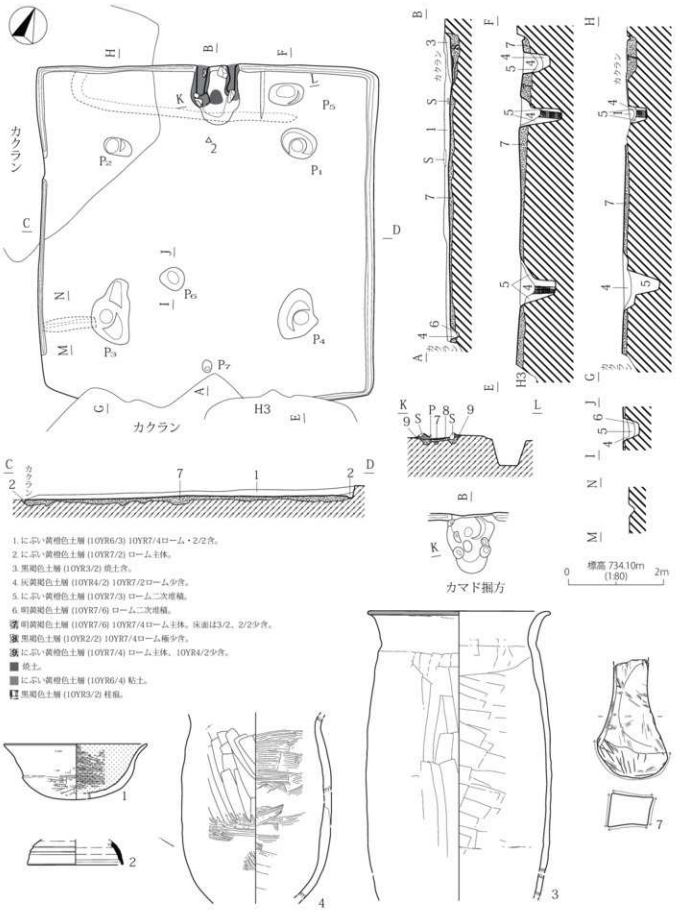
調査区中央付近で検出された。H3号竪穴建物に切られる。N－20°－Wに長軸方位をとり、短軸長7.63m、壁残高0.14mの規模である。床面上から検出された７基のピットのうち、均等に配置されるP1～P4の４基が主柱穴で、φ16cmの柱痕が確認された。P5は貯蔵穴、P7は出入口施設であるが、P8の性格は不明である。カマドは北壁中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマド部分と西南隅を除く壁下には周溝がめぐらされる。掘方から、P3と周溝を繋ぐ間仕切りが検出された。

遺物は、土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器には、坏・甕・壺の器種が認められる。坏は半球状の深めの底部から口縁部が外反するもので、外面底部がヘラケズリの他は、ヘラミガキ調整である。内面には更に黒色処理が施される。甕は長胴で、体部が膨らまない形態である。ヘラケズリ主体の調整が施されている。壺は球胴の形態で、6は外面に赤彩が施される。須恵器は坏蓋が１点出土している。石器は砥石と編物石が、石製品は軽石製品が出土している。

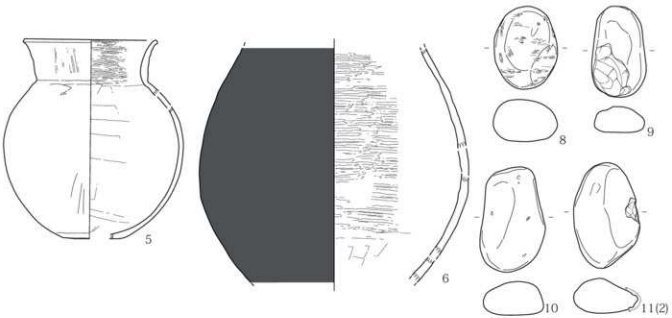
以上の出土遺物の特徴から、本址は古墳時代後期６世紀代の実年代が想定される。

●H3号竪穴建物（第6図）

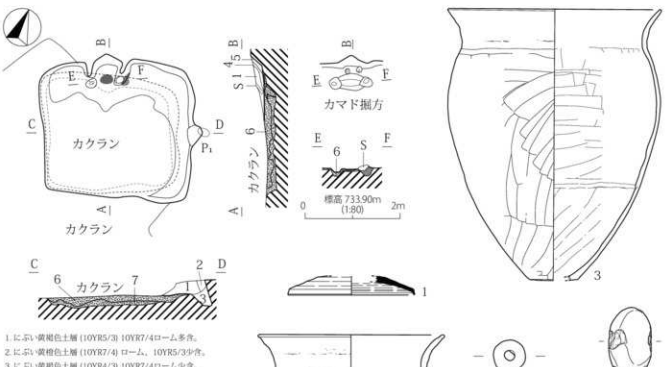
H2の南隣りに検出された。H2号竪穴建物を切る。西南部分がカクランに破壊されるため全容は不明



第4図　H2 号竪穴建物 (1)



第５図　H2 号竪穴建物 (2)



第６図　H3 号竪穴建物

である。N－22°－Wに長軸方位をとり、長軸長3.26ｍ、短軸長3.03ｍ、壁残高0.3ｍ、面積7.27㎡の規模である。東壁中央に１基検出された他はピットは存在しない。カマドは北壁中央部分に所謂「地山削出」で構築されているが、掘方状態であった。掘方から一回り小型の旧建物の痕跡が検出されており本址は建て替えが行われたことが判明した。

遺物は、土師器、須恵器、石器・石製品が出土した。土師器は武蔵甕が２点出土している。須恵器は坏

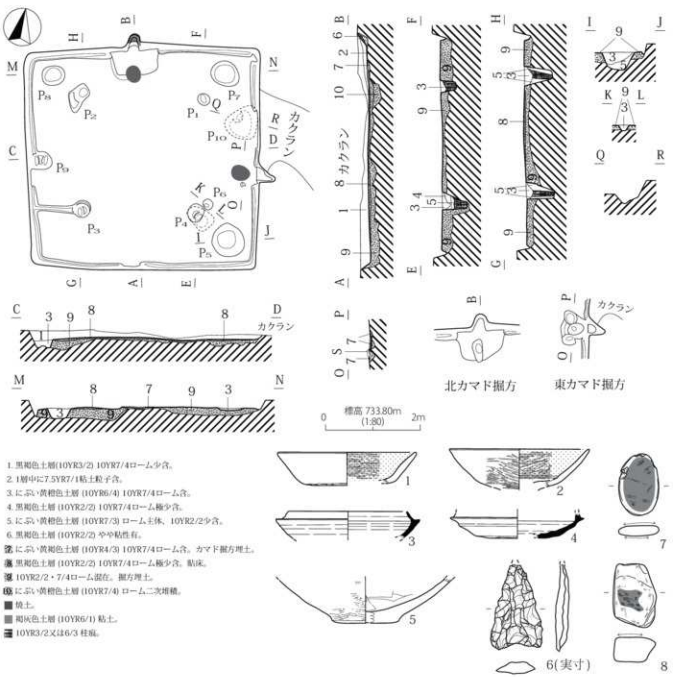
蓋が１点出土した。石器は編物石が、石製品は滑石製の臼玉が各１点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は８世紀第Ⅳ四半期の実年代が想定される。

● H4号竪穴建物（第7図）

H2の西南隣りで検出された。D1を切る。N－10°－Wに長軸方位をとる。長軸長4.95m、短軸長4.74m、壁残高0.18m、面積20.16㎡の規模である。床面上、掘方から計10基のピットが検出された。均等に配置されるP1～P4の４基が主柱穴で、φ16㎝の柱痕が確認された。掘方から検出されたP10は貯蔵穴、P9は出入口施設、P5・6が旧主柱穴の他は性格不明である。カマドは北壁と東壁の中央部分に２基検出されたが、東から北にカマドが移築された結果である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、P3から周溝に延びる間仕切が存在する。

遺物は、土師器、須恵器、石器が出土している。土師器には坏・高坏・壺の器種が認められる。坏・高坏の内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。壺は底部片で底部が突出している。須恵器は坏が２点出



第７図　H4 号竪穴建物

土している。石器はチャート製の打製石鏃１点と磨石２点が出土しているが、石鏃は重複するD1に帰属するものであろう。

以上の出土遺物の特徴から、本址は古墳時代後期６世紀代の実年代が想定される。

●H5号竪穴建物（第8図）

H4の西北隣りに検出された。カクランにより南半部分が消失している。N－9°－Wに長軸方位をとり、短軸長3.94ｍ、壁残高0.07ｍの規模である。6基検出されたピットのうち均等に配置されるP1～P4が主柱穴、P6は出入口施設であるが、P5は性格が不明である。カマドは北壁中央部分に所謂「地山削出」で構築されているが、掘方状態であった。東壁の壁下には周溝が存在する。

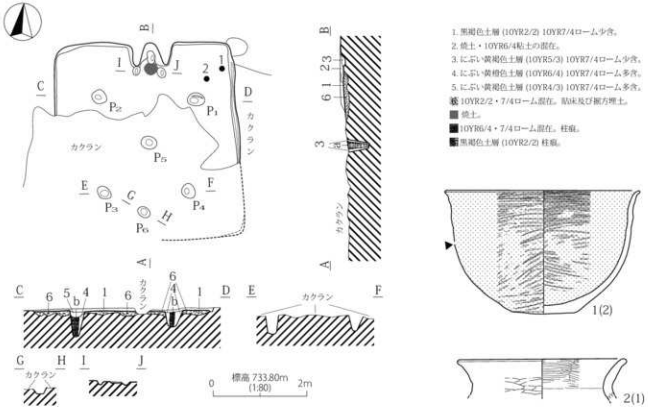
遺物は、土師器の鉢と甕が各１点出土している。

出土土器の形態的特徴から、本址は古墳時代後期６世紀代の実年代が想定される。

●H6号竪穴建物（第9図）

調査区北東部で検出された。カクランにより上面が削り取られている。N－9°－Wに長軸方位をとる。長軸長4.21ｍ、短軸長4.01ｍ、壁残高0.21ｍ、面積14.37㎡の規模である。床面上、掘方から検出された８基のピットのうち、均等に配置されるP1～P4の４基が主柱穴である。P6は出入口施設、P8は貯蔵穴であるが他のものは性格が不明である。カマドは北壁中央部分に壁際には均等に礎石が配置されており、壁柱穴と同様な機能をはたしたものと考えられる。カマドは北壁の中央部分に所謂「地山削出」で構築されているが、掘方状態であった。北壁から北西隅を除く壁下には周溝が巡らされている。P2、P3から周溝に向かう間仕切が存在する。

遺物は、土師器、石器が出土している。土師器には坏・鉢・甕の器種が認められる。坏は１のような半球状のものと、２のような扁平な丸底から口縁部が大きく外反する形態が存在する。鉢は形態的には小型甕と言ったほうが良いかもしれないが、外面ミガキ調整のため鉢とした。甕5は底部片、6は体部下半に最



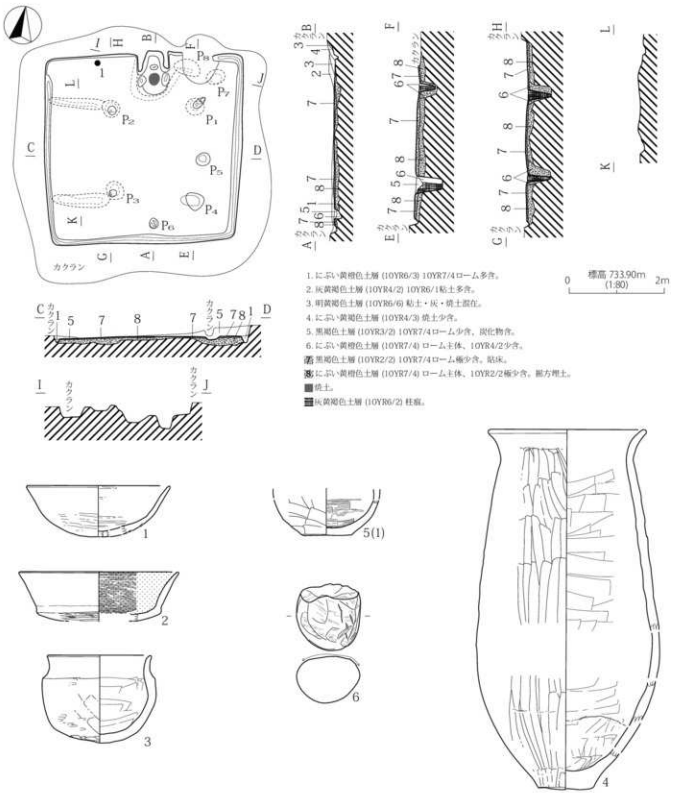
第８図　H5 号竪穴建物

大径を有し、底部が突出する。石器は砥石が１点出土している。

出土土器の形態的特徴から、本址は古墳時代後期６世紀代の実年代が想定される。

●H7号竪穴建物（第10図）

調査区南端で検出された。H3に切られ、カクランによる破壊を受けている。壁残高0.37ｍの規模である。床面上から検出された２基のピットは主柱穴であり、φ16㎝の柱痕が確認された。カマドは北壁中央部分に構築されているが、火床が残存していただけであった。北壁東半から東壁の壁下には周溝が巡る。

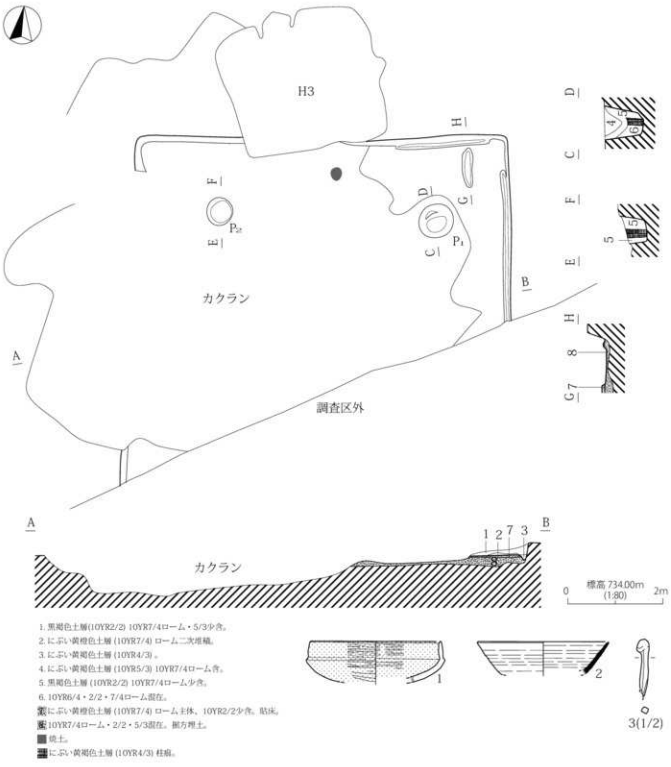


第９図　H6 号竪穴建物

出土遺物は土師器坏、須恵器坏、鉄器角釘が各１点認められる。須恵器は混入品であろう。
出土土器の形態的特徴から、本址は古墳時代後期６世紀代の実年代が想定される。

●H8号竪穴建物（第11図）

調査区南端で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高0.47ｍの規模

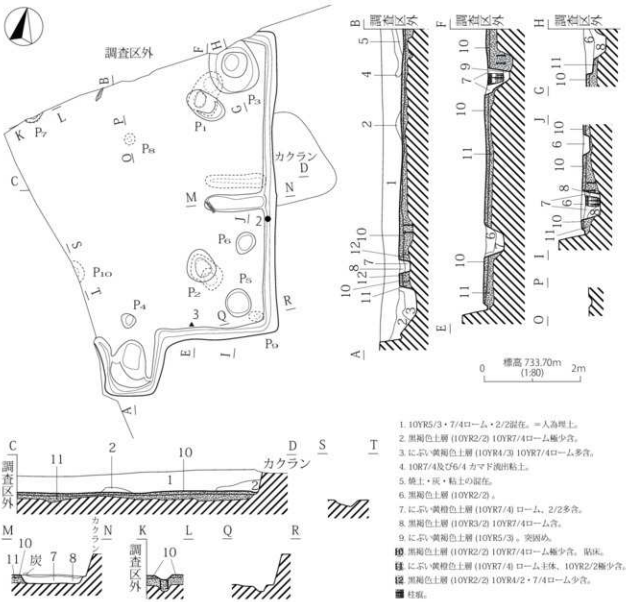


第10図　H7号竪穴建物

である。床面上、掘方から検出された10基のピットの内、P1・2の２基は主柱穴で、φ20cmの柱痕が確認された。本址は建て替えが行われており、主柱穴と東壁中央から延びる間仕切は旧遺構が掘方から検出された。南壁中央には張り出し部が付加されており、貯蔵穴と思われるピットが内包される。壁下には周溝が巡る。検出範囲にはカマドは存在しなかった。

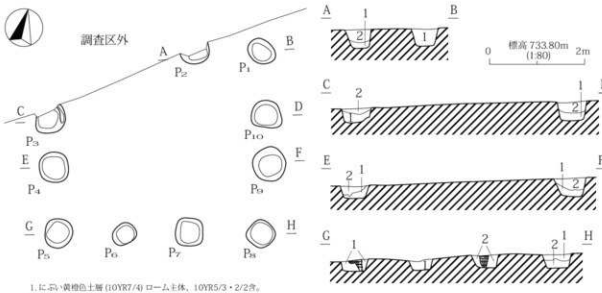
遺物は、土師器、石器・石製品、鉄器が出土している。土師器には坏・高坏・甕・壺の器種が認められる。坏は低い丸底から口縁部が大きく外反するものであり、底部外面にヘラケズリが施される他は、ヘラミガキ調整で、内面には更に黒色処理が施される。高坏は坏部に稜を持たないもので、内外面ヘラミガキ調整で、内面には黒色処理が施される。甕は体部が膨らむ形態で、底部が突出している。調整は内面ナデ、外面ヘラケズリが基本である。壺は球胴から頸部が直立し、口縁端部が外反する。内外面にヘラミガキ調整が施される。石製品は滑石製の臼玉が１点出土している。石器は編物石が6点、磨石が４点出土している。鉄器は完形の鎌が出土している。

出土土器の形態的特徴から、本址は古墳時代後期６世紀代の実年代が想定される。



第 11 図　H8 号竪穴建物 (1)

第 12 図　H8 号竪穴建物 (2)



第 13 図　F1 号掘立柱建物

第２節　掘立柱建物

● F1号掘立柱建物（第13図）

調査区北側でH6とH8の間で検出された。調査区外に延びるため全容は不明であるが、検出範囲では他遺構との重複関係は認められなかった。2間×２間の側柱の形態で、N－101°－Wに長軸方位をとり、桁行長4.47ｍ、梁間長3.91ｍ、面積17.37㎡、柱痕径φ18㎝の規模である。

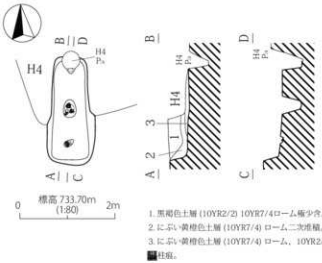
出土遺物は皆無であるが、竪穴建物と軸が揃っており、重複しないことから、竪穴建物と同様に古墳時代後期６世紀代の実年代が想定される。

第３節　土坑

● D1号土坑（第14図）

調査区中央南寄りで検出された。H4に切られる。平面隅丸方形、断面逆梯形の形態で、底面には小径のピットが3基穿たれている。N－4°－Wに長軸方位をとり、長軸長2.3ｍ、短軸長1.02ｍ、壁残高0.32ｍの規模である。

遺物は、皆無であるが、形態的特徴から本址は縄文時代の陥穴と思われる。



1. 黒褐色土層（10YR2/2）10YR7/4ローム極少含。
2. にぶい黄橙色土層（10YR7/4）ローム二次堆積。
3. にぶい黄橙色土層（10YR7/4）ローム、10YR2/2少含。
■柱痕。

第14図　D1号土坑

第４節　ピット（第15・16図）

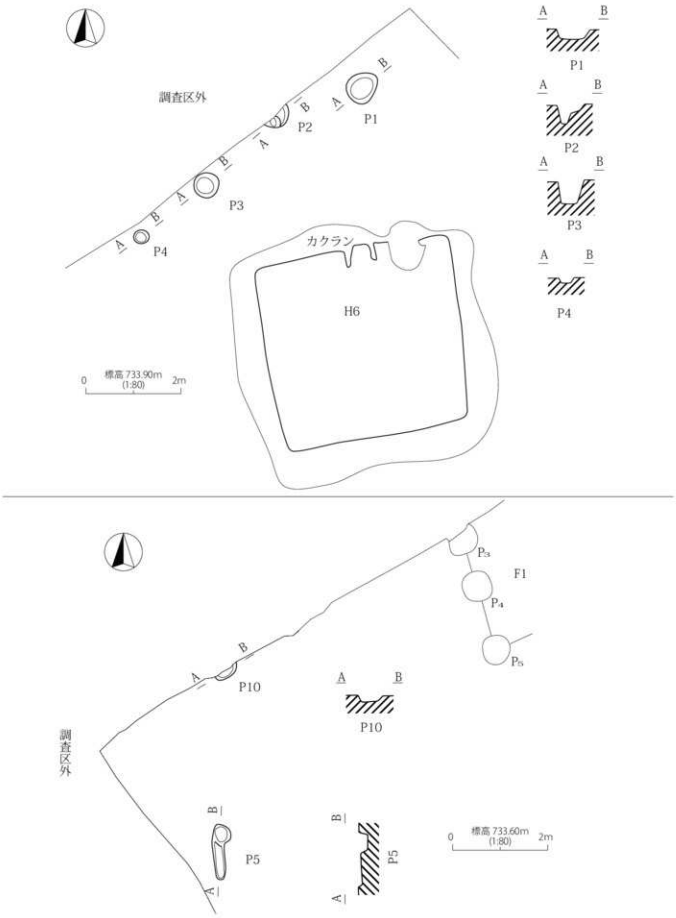
10基検出された。調査区全体に展開している。詳細は計測表を参照されたい。

第Ⅲ章　まとめ

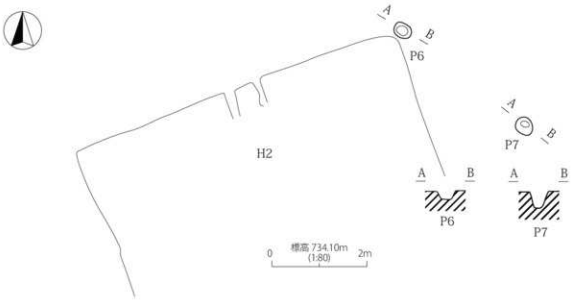
上聖端遺跡の北には聖原遺跡が隣接しており、二つの遺跡を分離する根拠は存在しないため、基本的に同一の遺跡として捉えることが望ましい。大規模遺跡としての聖原遺跡の端緒は６世紀にあることも、当遺跡の時期と矛盾しない。上聖端遺跡内では今回の調査を含め、５次に亘る調査が行われており、偶然にも調査区域は集中している。時期的にはⅡ・Ⅲ・Ⅳ次調査では7世紀末から8世紀代であるが、Ⅲ次の北西端に構築された１軒が今回調査分と同様に古墳時代後期６世紀の所産である。台地北側には古墳時代後期遺構が集中するのかもしれない。縄文時代陥穴は低湿地周辺に展開する傾向があることから、D1号土坑の存在は付近に低湿地の広がりを示唆するものかもしれない。出土遺物は６世紀の土器が主体であり、混入物は認められなかった。一つの時期の遺構数は比較的多いが、遺構同士は重複しない傾向が認められる。

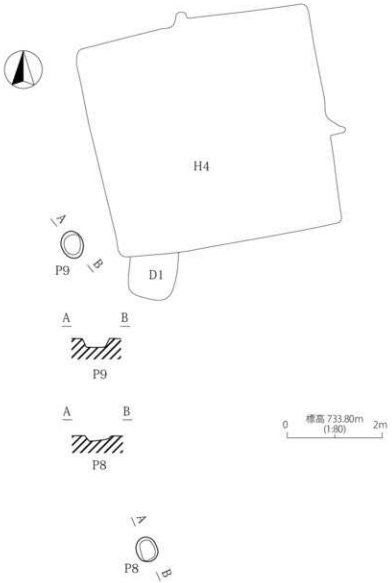
引用・参考文献

1993　佐久市埋蔵文化財調査報告書第24集　上聖端遺跡　佐久市教育委員会
2012　佐久市埋蔵文化財調査報告書第211集　上聖端遺跡Ⅱ　佐久市教育委員会
2014　佐久市埋蔵文化財調査報告書第226集　上聖端遺跡Ⅲ　佐久市教育委員会
2017　佐久市埋蔵文化財調査報告書第252集　上聖端遺跡Ⅳ　佐久市教育委員会


調査区外
P1
P2
P3
P4
カクラン
H6
標高 733.90m
(1:80)
0
2m
A
B
P1
P2
P3
P4
P3
F1
P4
P5
P10
P10
調査区外
P5
P5
標高 733.60m
(1:80)
0
2m

第15図　ピット(1)


A
B
P6
H2
A
B
P7
A
B
P6
A
B
P7
0
標高 734.10m
(1:80)
2m


H4
A
P9
B
D1
A
B
P9
A
B
P8
0
標高 733.80m
(1:80)
2m
A
P8
B

第 16 図　ピット (2)

竪穴建物計測表

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備　　考	時　期
H 1	カクランに切られる	N－15°－W	4.56	－	0.40	－	4	カマド、周溝	－	6 世紀
H 2	H3 に切られる	N－20°－W	－	7.06	0.14	－	7	カマド、周溝、間仕切、貯蔵穴	－	6 世紀
H 3	H2・7 を切る	N－22°－W	3.26	3.03	0.30	7.27	1	カマド	建て替え	8 世紀
H 4	D1 を切る	N－10°－W	4.95	4.74	0.18	20.16	9	カマド、周溝、間仕切、貯蔵穴	カマド付け替え	6 世紀
H 5	カクランに切られる	N－9°－W	－	3.94	0.07	－	6	カマド、周溝	－	6 世紀
H 6	カクランに切られる	N－9°－W	4.21	4.01	0.21	14.37	6	カマド、周溝	－	6 世紀
H 7	H3 に切られる	－	－	－	0.37	－	2	カマド、周溝	－	6 世紀
H 8	カクランに切られる	－	－	－	0.47	－	10	周溝、間仕切、張出部に貯蔵穴	－	6 世紀

掘立柱建物計測表

遺構名	重複関係	長軸方位	桁行長	梁間長	面積	柱痕径	桁行柱間寸法	梁間柱間寸法	備　　考
F 1	－	N－101°－W	4.47	3.91	17.37	0.18	1.39 ～ 1.54	0.96 ～ 1.47	－

土坑計測表

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備　　考
D 1	H4 に切られる	隅丸長方形	N－4°－E	2.30	1.02	0.32	1.44	陥穴

ピット計測表

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高
P 1	－	楕円形	0.72	0.62	0.23
P 2	－	楕円形	0.61	－	0.44
P 3	－	円形	0.55	0.54	0.50
P 4	－	楕円形	0.33	0.28	0.12
P 5	－	不整形	1.17	0.39	0.18
P 6	－	楕円形	0.38	0.31	0.19
P 7	－	楕円形	0.41	0.35	0.36
P 8	－	楕円形	0.54	0.44	0.14
P 9	－	楕円形	0.57	0.47	0.21
P10	－	楕円形	0.50	－	0.15

H1 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器　種	器　形	法　量				成　形・調　整		備　考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内　面	外　面		
1	土師器	坏	15.1	12.1	4.4	－	ミガキ	底部ヘラケズリ、口縁部ミガキ	完全実測	No2
2	土師器	鉢	(14.0)	(14.0)	(8.3)	－	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
3	土師器	甑	－	(8.4)	<8.9>	－	ミガキ	ミガキ	完全実測	No1
4	石製品	軽石製品	7.0	6.0	3.3	59.3	全体に磨り		完全実測	Ⅲ区
5	石器	磨石	3.5	17	1.4	13.2	全体に磨り		完全実測	Ⅲ区

H 2 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(15.2)	(11.7)	<5.9>	—	ミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ、口縁部ミガキ	回転実測	Ⅱ～Ⅳ区、P4
2	須恵器	坏蓋	(9.6)	—	<2.6>	—	ナデ	天井部に２条の沈線	回転実測	Ⅲ区
3	土師器	甕	(19.4)	—	<30.2>	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区、カマド
4	土師器	甕	—	—	<19.4>	—	ハケメ	ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区、カマド
5	土師器	壺	(14.6)	(6.5)	(21.6)	—	ミガキ、ナデ	ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅱ区、P2
6	土師器	壺	—	—	<25.5>	—	ミガキ	ミガキ→赤彩	回転実測	Ⅰ～Ⅲ区、P4
7	石器	砥石	<12.5>	<7.5>	<5.7>	<48.9>	上部欠損、砥面数５、端部に条痕		完全実測	Ⅳ区
8	石製品	軽石製品	9.0	6.9	4.6	12.2	全体に磨り		完全実測	Ⅳ区
9	石器	編物石	9.9	5.9	2.8	21.2	使用痕有り		完全実測	覆土
10	石器	編物石	11.4	7.0	3.7	40.3	—		完全実測	Ｐ１
11	石器	編物石	11.5	7.1	3.8	38.9	側面に抉り		完全実測	No2

H 3 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏蓋	(12.8)	—	<2.0>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
2	土師器	武蔵甕	(19.8)	—	<8.6>	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
3	土師器	武蔵甕	(22.6)	(5.0)	<28.8>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
4	石製品	白玉	0.9	0.85	0.35	0.39	孔径 0.25		完全実測	Ⅳ区
5	石器	編物石	7.3	4.5	3.6	146.0	両側に抉り		完全実測	Ⅳ区

H 4 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.8)	(9.4)	<3.5>	—	ミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区、P5
2	土師器	高坏	(15.0)	(8.3)	<4.4>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	Ⅲ区ホリ、Ⅳ区
3	須恵器	坏	(12.8)	(15.4)	<2.9>	—	ナデ	ナデ	回転実測	P5
4	須恵器	坏	—	(14.2)	<3.4>	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅳ区
5	土師器	甕	—	(7.2)	<4.8>	—	ナデ	ミガキ	回転実測	Ⅳ区、P5
6	石器	石鏃	<2.60>	1.4	0.3	<1.09>	チャート、先端欠損		完全実測	Ⅰ区
7	石器	磨石	6.6	4.3	1.2	42.0	磨面２、縁辺に使用痕		完全実測	Ⅲ区ホリ
8	石器	磨石	6.8	4.6	2.6	130.2	全体に磨り		完全実測	Ⅳ区ホリ

H 5 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	鉢	(21.0)	(7.0)	(13.3)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転実測	No2、Ⅰ区
2	土師器	甕	(18.2)	—	<4.6>	—	ミガキ	ナデ	回転実測	No1

H 6 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(15.2)	(12.2)	<5.4>	—	ミガキ	ナデ	回転実測	カマド
2	土師器	坏	(17.0)	(13.2)	<5.2>	—	ミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅱ区
3	土師器	鉢	(11.0)	(5.8)	(9.3)	—	ナデ	ミガキ	回転実測	Ⅳ区・Ⅳ区ホリ、P4
4	土師器	甕	(16.7)	(6.0)	(38.1)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
5	土師器	甕	—	(5.4)	<4.9>	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	No1、Ⅰ区、ケン
6	石器	砥石	7.1	6.8	5.0	141.2	正面に砥面、条痕あり		完全実測	Ⅲ区

H 7 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.0)	(14.8)	<4.3>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転実測	Ⅰ区
2	須恵器	坏	(14.0)	—	<3.5>	—	ナデ	火襷	回転実測	カクラン
3	鉄製品	釘	<3.1>	0.6	0.3	<1.29>	先端欠損		完全実測	Ⅰ区

H 8 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(15.0)	(9.0)	<4.7>	—	ミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区、P3
2	土師器	高坏	(6.4)	—	<5.3>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	Ⅲ区
3	土師器	鉢	12.4	6.4	15.2	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	No2
4	土師器	甕	(15.0)	—	<15.2>	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅰ区、P3
5	土師器	甕	(15.7)	—	<12.8>	—	ハケメ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
6	土師器	甕	—	(6.7)	<13.6>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
7	土師器	甕	—	(7.2)	<6.1>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
8	土師器	壺	(15.2)	—	<20.1>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅰ区
9	土師器	壺	—	(7.9)	<11.4>	—	ハケメ	ヘラケズリ→ミガキ	回転実測	Ⅳ区、P6
10	石製品	白玉	1.2	1.2	0.4	1.12	孔径 0.30、滑石製		完全実測	Ⅰ区
11	石器	編物石	<8.1>	<5.3>	<4.5>	<210.5>	下部欠損、使用痕有、上端部赤色部分有		完全実測	Ⅳ区
12	石器	編物石	<8.1>	<6.1>	<2.6>	<148.4>	下部・側面欠損、抉り有		完全実測	Ⅳ区
13	石器	編物石	<8.3>	<6.2>	<3.0>	<183.7>	上部欠損		完全実測	Ⅳ区
14	石器	編物石	8.5	4.5	3.1	180.9	一部黒化		完全実測	Ⅳ区
15	石器	編物石	9.2	6.2	3.2	257.5	使用痕有		完全実測	Ⅳ区
16	石器	編物石	9.7	6.9	4.5	359.0	抉り・使用痕有		完全実測	Ⅳ区
17	石器	磨石	<4.1>	<3.5>	<1.6>	<18.4>	全周欠損、磨面 1		完全実測	Ⅲ区
18	石器	磨石	<4.3>	<4.5>	<3.7>	<84.0>	下部欠損、磨面 1		完全実測	Ⅳ区
19	石器	磨石	5.0	2.5	1.8	31.8	全体に磨り		完全実測	Ⅳ区ホリ
20	石器	磨石	9.6	4.7	3.7	198.7	磨面 2		完全実測	Ⅳ区ホリ
21	鉄器	鎌	10.80	2.40	0.25	26.40	—		完全実測	No3

H1 号竪穴建物完掘

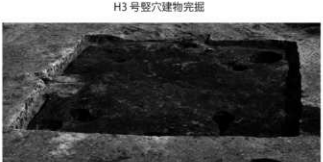
H1 号竪穴建物カマド

H2 号竪穴建物完掘

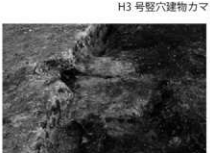
H2 号竪穴建物カマド

H3 号竪穴建物完掘

H3 号竪穴建物カマド



H4 号竪穴建物完掘



H4 号竪穴建物北カマド

H4 号竪穴建物東カマド

H5 号竪穴建物完掘

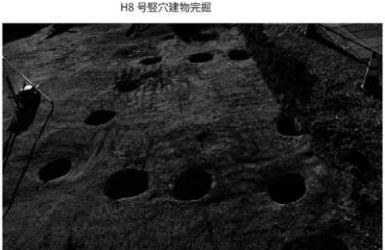
H6 号竪穴建物完掘

H6 号竪穴建物カマド完掘

H7 号竪穴建物完掘

H8 号竪穴建物完掘

D1 号土坑完掘

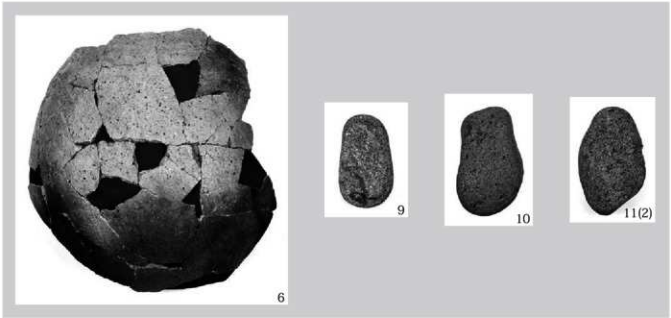


F1 号掘立柱建物完掘

上聖端遺跡Ⅴ全景

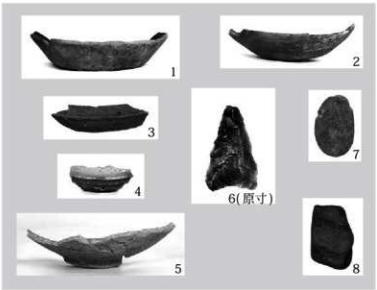
H1 竪穴建物出土遺物

H2 竪穴建物出土遺物 (1)



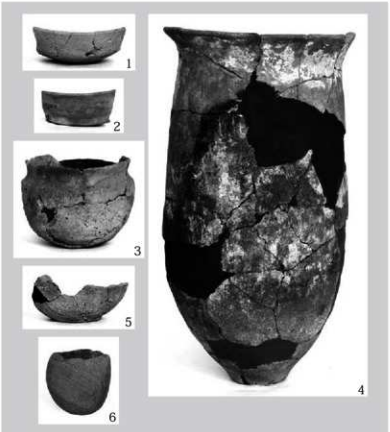
H2 竪穴建物出土遺物 (2)

H3 竪穴建物出土遺物



H4 竪穴建物出土遺物

H5 竪穴建物出土遺物



H6 竪穴建物出土遺物

H7 竪穴建物出土遺物

H8 竪穴建物出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かみひじりばたいせき 5
書名	上聖端遺跡Ⅴ
副書名	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 288 集
編著者名	小林眞寿
編集機関	佐久市教育委員会　文化振興課
所在地	長野県佐久市中込 2913　℡ 0267-63-5321　FAX0267-63-5322
発行年月日	令和 4 年（2022）3 月

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かみひじりばたいせき5 上聖端遺跡Ⅴ	さくしながとろあざかみひじりばた 佐久市長土呂字上聖端 157-1 他	20217	9	36° 28'81"	138° 47'66"	令和元年 11 月 5 日 ～ 11 月 27 日	596.31㎡	配送センター建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上聖端遺跡Ⅴ	集落址	古墳時代後期	竪穴建物 - 8 軒 掘立柱建物 - 1 棟 土坑 - 1 基 ピット -10 基	土師器　須恵器 石器・石製品 鉄器	

要約	古墳時代後期の集落址の調査。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 288 集

上聖端遺跡Ⅴ

令和 4 年 3 月
編集・発行　佐久市教育委員会
〒 385-8501　長野県佐久市中込 3056
社会教育部　文化振興課　文化財事務所
〒 385-0051　長野県佐久市中込 2913
℡ 0267-63-5321
印刷所　　キクハラインク有限会社

'22
第288集

上聖端遺跡V

佐久市教育委員会